

ガバナー退任に当って

ガバナー 松本 良 諄

会長、幹事の皆さん、私達の任期も、まさに終わろうとしております。長い間ご苦勞さまでした。心から敬意を表し、感謝申し上げます。私は今、公式訪問を始め数々の行事を、感動をもってふり返っております。

皆さんは今年のR Iのテーマ「ロータリアン…奉仕に結束—平和に献身」の下に、クラブの状況と地域のニーズに照して、会長方針を定めクラブをリードしてこられました。

全てのクラブが明るく楽しいクラブ作りをめざして、出席、親睦活動、会員増強、ロータリー情報などクラブ発展の基礎となる、クラブ奉仕の充実に力を尽されました。その結果、退会者が半減し、三つの新クラブの結成を含めて会員は約6% (推定) 純増しました。

地区の重点活動のポリオ・プラスと緑化推進についても、格段のご努力を頂きました。

ポリオ・プラスは4月末時点で、地区全体として最終目標の56%に達し、当年度の予定(42%)を上廻りました。

緑化推進は当地区が核となり「国際花と緑の博覧会」に対する全国ロータリアンの協賛に発展しつつあります。私達は「70年エキスポ」の「平和のバラ園」のように、後世に残る立派なものをめざしています。

その他、社会奉仕、国際奉仕等においても各クラブは新しい発想で新プロジェクトを起し、或いは定例的なものもマンネリを排して活性化に努めて頂きました。

ロータリーは変わりつつあります。米国では女性会員が5,000名を超えております。明年1月の規定審議会で定款が変更されて、米国以外でも女性の入会を認めることが各クラブに委ねられることになるであります。

また、社会主義国へのアプローチが進んでおります。ロータリー財団は非ロータリー国の留学生に対して門戸を開きましたし、一部の国で、ソ連等とG S Eに準じた専門家の交換が行われようとしております。

一方、わが国の国際化は急速且つ広況に進んでいます。このような変化に即応するため、ロータリーは柔軟な姿勢をもって、社会に対してより開けたものにならなければならないと思います。ともあれ、環境がどのように変わろうとも「超我の奉仕」を踏まえた立派なクラブ作りが基本であること、そしてロータリーは永遠であることに変わりはないと確信いたします。

皆さん、一年間のご協力、ありがとうございました。心より、深く感謝申し上げます。